

# 週刊 かわら版

生徒と保護者のための

## ご卒業

## おめでとう

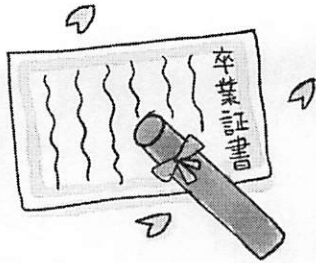
## ございます

多くの資格取得に、部活動や生徒会活動に懸命に取り組んだ生徒・・・何よりも、三年間、無欠席・無遅刻・無早退の生徒が102名にのぼる。それぞれを称(たた)えたい。

卒業おめでとう。どんな三年間を過ごしましたか。入学当時に描きたかったものが完成したでしょうか。

昔、病院の待合室で読んだ漫画に、こんなニュアンスのことばがあったのを思い出しました。

「人生とはそういうものだよ。生まれた時、人は白い画用紙と色とりどりのクレヨンで渡されて何でも描いていいよと言われる。さて何を描こ



### 先見コーナー

- 2/27(月)○3年出校日・課題研究発表会
- 2/28(火)○同窓会入会式  
○宣状授与式・卒業式予行
- 3/01(水)○第56回卒業式
- 3/02(木)○学年末考査(予備日)  
○担任による頭髪検査(～10日)
- 3/03(金)○学年末考査(～18日)  
○第8回自専攻科入学学力検査
- 3/08(水)○学年末考査]  
○青少年赤十字の日
- 3/11(土)○自専攻科新入生説明会  
※「3・11 私たちは、忘れない。」
- 3/13(月)○2年就職ガイダンス  
○指導部による頭髪検査後 個人写真撮影(1年)(～14日)
- 3/14(火)○2年就職ガイダンス
- 3/15(水)○姉妹校ガイダンス(2年)5・6限
- 3/16(木)○成績伝票提出日  
○自専攻科修了・進級判定会  
○第9回仕事フェア  
○指導部による頭髪検査後 個人写真撮影(2年)(～17日)
- 3/18(土)○新入生招集日

次のかわら版25号は3月10日(金)発行予定です。



つぶりあったはずの時間は過ぎていく・・・。ようやく描くものが決まった時には、もう帰る時間さ・・・描きかけの紙とクレヨンは・・・取り上げられてしまうんだ」(からくりサーカス 藤田和日郎)  
描きかけの紙があるかもしれない。でも、あきらめる必要はない。次のステージで描き続ければよい。また、次のステージで描きたいものが変わるかもしれない。次のステージでは何を描こうかと迷うことなく、時間を大切にしていけることは、賢い生き方ではない。

### 最近のHP更新

- 平成28年度進路速報!
- アートフェスに出展
- 情報モラルセミナー開催
- 二年修学旅行の様子
- プレップ科二年海外研修
- 金融経済教育セミナー開催
- かごしま環境未来館主催フォトコンテスト 最優秀賞
- 全国高等学校ゼロハンカー大会出場
- マルチメディア科二年生CM作り
- e-プレップ科二年生NZ留学出発
- 医療福祉科国家試験出陣式

### チャレンジ・ボード

情報

○ドラマ甲子園  
3月31日締切

○甲突川クリーンナップ活動  
3月12日10時～11時  
維新ふるさと館付近に集合  
詳しくはチャレンジボードで  
(一階エレベーター付近)

### スクールカウンセラー

当面のスクールカウンセラーの先生(臨床心理士)の来校日は次のとおりです。保護者、生徒、受け付けています。  
ご希望の日の一週間前までに申し込みをしてください。教育相談部で日程調整をいたします。

○3月3日(金)

○3月10日(金)  
○3月17日(金)

○3月24日(金)  
○3月31日(金)

### 編集後記

卒業生のみなさん、保護者の方々にはこの二年間、かわら版を読んでいただきまし。昨年の卒業生からも、「今でもホームページで読んでいますよ」という声が届く。社会人になる人、さらに上の学校で学ぶ人、それぞれに忙しい時間を過ごすごとでしよう。時には、懐かしい顔を見せてください。また、ホームページも訪れてください。

### 清流

救急車や消防車、パトカーのけたたましい音が鳴り響き、学校周辺に緊急した空気が押し寄せた。ニュースによると「道路の地下の水路を男性4人が作業をしていたところ、水路が雨で増水し流された。4人はおよそ500メートル離れた永田川まで流され、救助された」救助にあたったのが本校の職員と生徒である▼私ごとであるが、その時間帯、赤十字で救急法指導員養成講習を受けていた。心肺蘇生とAEDの普及を目指し、その指導にあたるためのものだ▼目の前で、もし人が倒れ、意識がなかったら・・・どうすればいいのだろう。救急車が現場に到着するのに全国平均で8分30秒くらいかかると言われる。呼吸や心臓の止まった人が救命処置を受けずに、助かる可能性は時間の経過とともに低くなる。8分で20%の救命の可能性まで低下する。そのため、救急車が到着するまでの間に、一般市民による一次救命処置が行われることが大切であるとされる▼自分の命は自分で守ること(自助)も大切であるが、それ以上にお互いに命を守っていく(共助)も大切である。確かな技術と知識が、人を救おうとする勇気を後押しする。ぜひ、救急法の講習を受けてもらいたい。